

組子を宇和島市の魅力に

文10班 小島理緒 魚住奈央 植村愛里 越智由華 指導者：山崎 薫

1. 目的

日本の伝統工芸品である組子の魅力を発信することで、宇和島を知ってもらう。

2. 仮説

- (1) 宇和島市の人々を中心に組子を発信し知ってもらうことで、組子に興味を持ってもらえるのではないか。
- (2) 組子の魅力を発信することで、後継者不足の解決にも繋がるのではないか。

3. 研究内容

- (1) 組子を実際に見て触って、組子について知る
- (2) 校内でアンケートを取る
- (3) 上記の結果を踏まえ発信方法を考える

6. インタビュー

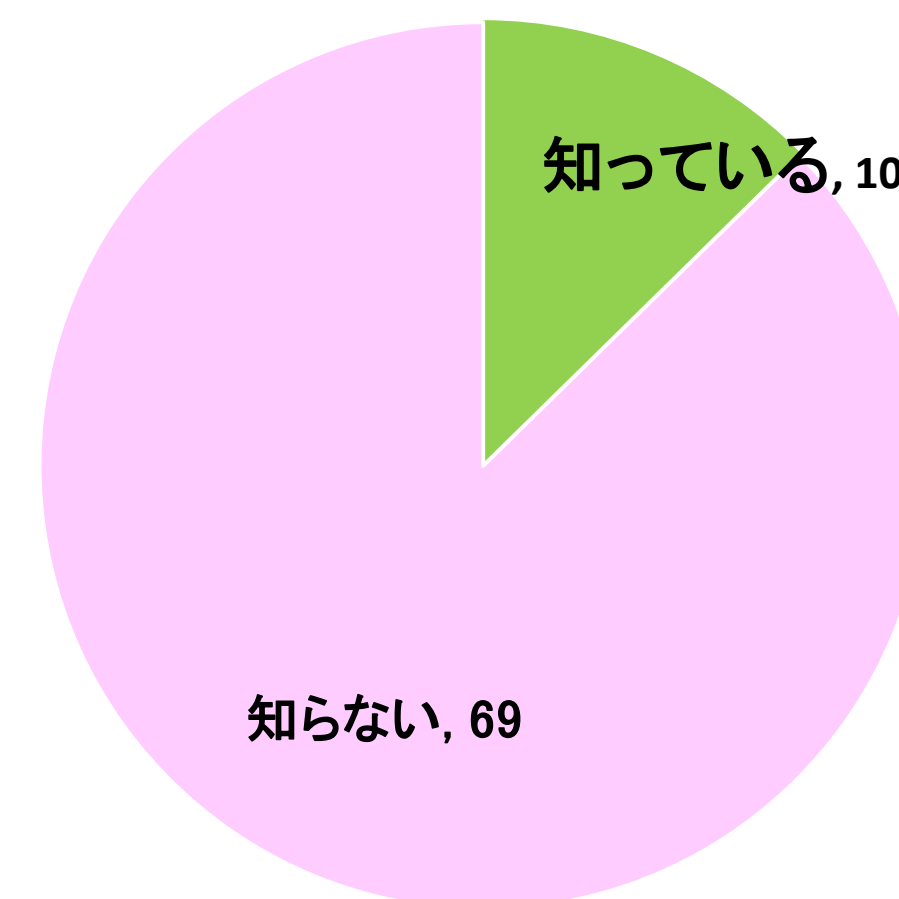
- (1) 木工教室を開いているのは、子供たちに夢を持ってもらうため
- (2) 組子職人の人口→少ない。
本格的にやっている人は年々減っている。
備品を作るために機械を使うため若い人口も増えている。
- (3) 木の寸法が1ミリでも狂うとダメになる。
緻密な計算が行われている。

7. 今後の課題

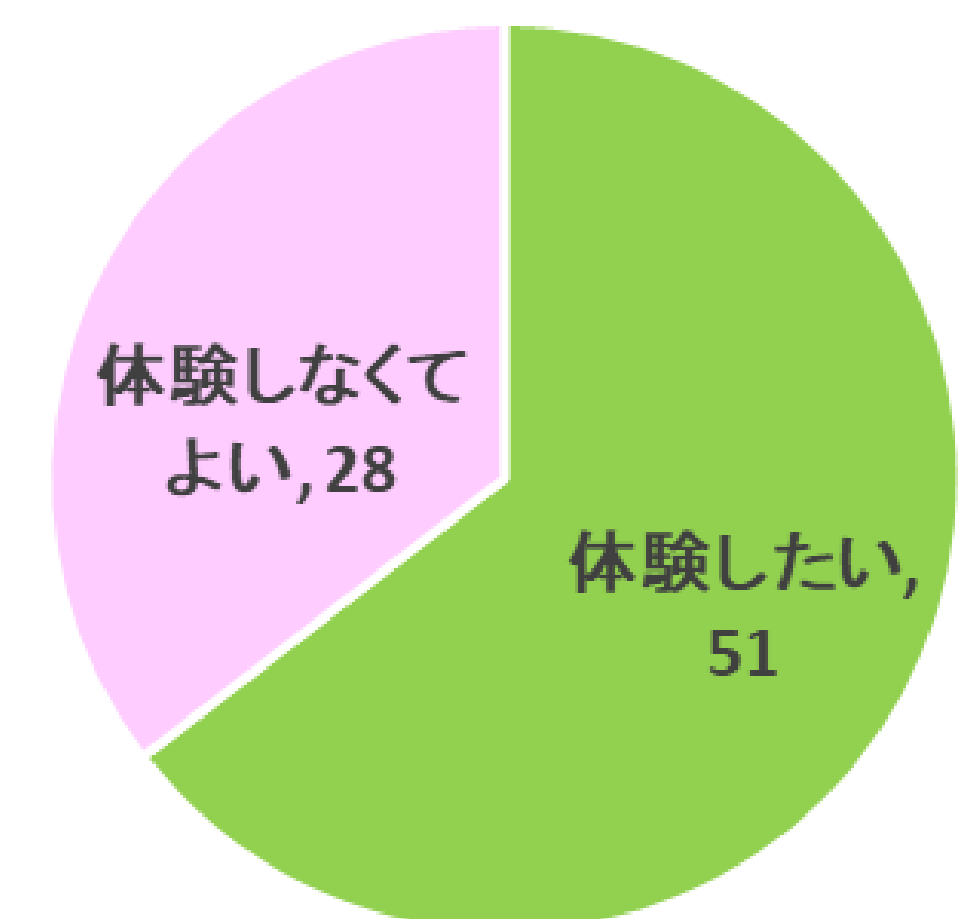
組子の構造にも着目し、私たちだけが組子の魅力を知るのではなく、1人でも多くの人にその魅力を伝えるため宇和島市と協力をし、発信方法を模索する。そして、仮説検証ができるまで研究を進めたい。

4. アンケートの結果

1 組子を知っていますか



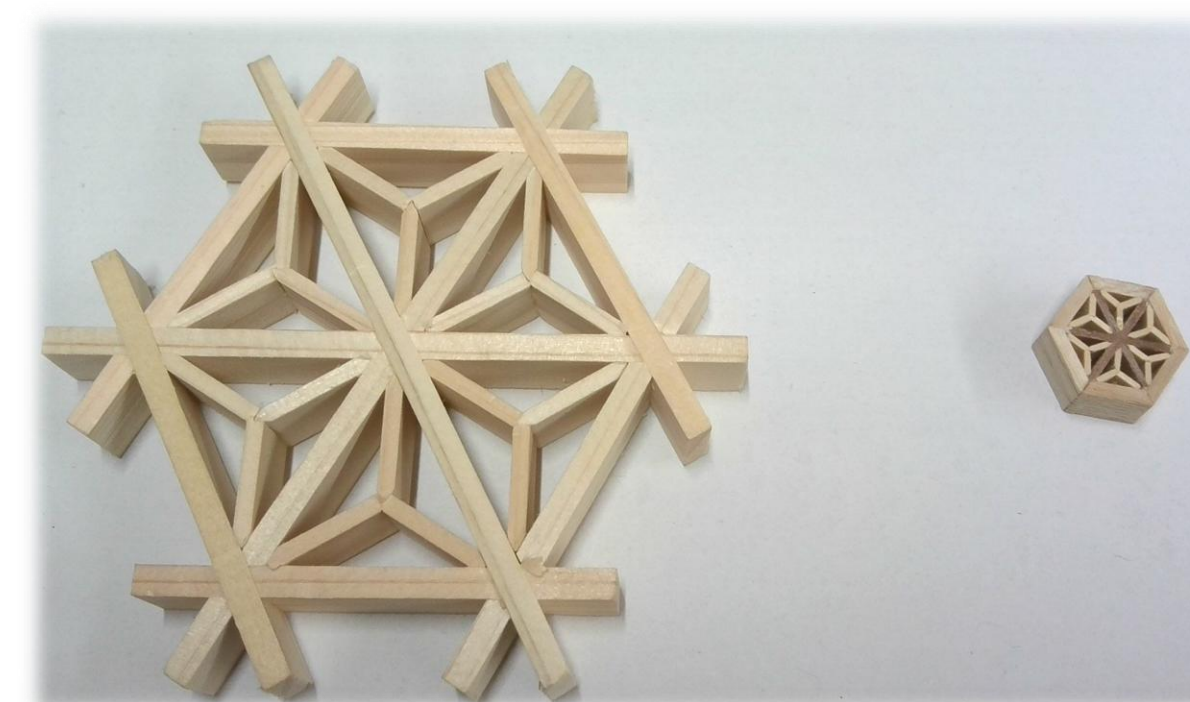
2 組子を作る体験をしてみたいですか



5. 体験



ハつ鹿モチーフの組子作品



小さな木材パーツを組み合わせることで大小様々な組子ができる。アクセサリや建具にもなったり多様である。